

### 13. 被覆・根固工

#### 13-1 被覆石工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 被覆石 (均しを行わない面)	天端面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下
2. 被覆石均し	天端面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下
	法面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線間隔は10m以下、測点3点以上但し、マウンド厚2m以下の場合は2点以上
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下
	延長	スチールテープ、間縄等により測定	天端中心上又は監督職員の指示による。

#### 13-2 被覆ブロック工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 被覆ブロック製作	型枠形状寸法(異形ブロック)	観察	型枠搬入後適宜
	ブロック外観(異形ブロック)	観察	10個に1個以上測定
2. 被覆ブロック据付	延長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上(最上段のみ)

#### 13-3 根固ブロック工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 根固ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数
2. 根固ブロック据付			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
10cm	出来形図を作成し提出	㊟による。	様式・出来形13-1-1参照
10cm	出来形図を作成し提出	±50cm 岸壁前面 +0、-20cm又は㊟による。	
10cm	出来形図を作成し提出	±50cm(法面に直角)異形ブロック据付面(整積)の高さ(法面に直角)±30cm又は㊟による。	
10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -20cm	
10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -20cm	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	観察結果を報告		
	観察結果を報告		
1 cm	管理表を作成し提出		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	幅 +2 cm, -1 cm 高さ +2 cm, -1 cm 長さ +2 cm, -1 cm 壁厚 ±1 cm	様式・出来形13-3-1参照
1 cm	管理表を作成し提出		
			13-2-2被覆ブロック据付を適用する。

## 14. 上部工

### 14-1 上部コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
上部コンクリート工			
イ) 防波堤	天端高又は厚さ	レベル等により測定	天端面は1スパン4箇所以上 パラペット頂部は1スパン2箇所以上
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所
	延 長	スチールテープ等により測定	法線上
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所
ロ) 岸 壁	天端高又は厚さ	レベル、スチールテープ等により測定	1スパン3箇所
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所
	延 長	スチールテープ等により測定	法線上
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所
	防舷材ベッド	スチールテープ等により測定	スパン毎
ハ) 棧 橋			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は±2 cm 天端幅10mを超える場合は+5 cm-2 cm	様式・出来形14-1参照 天端高さ又は厚さの管理項目の選定は特による。  注) 本体がケーソンの場合ケーソン質量 2,000t未満 ±20cm 2,000t以上 ±30cm  天端高又は厚さの管理項目の選定は特による。
1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は±3 cm 天端幅10mを超える場合は+5 cm-3 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない -0	
1 cm	測定表を作成し提出	±5 cm 注) 又は特による。	
1 cm	測定表を作成し提出	±2 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	±2 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない -0	
1 cm	測定表を作成し提出	±3 cm	
1 cm	測定表を作成し提出		

## 14-2 上部ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 上部ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数
2. 上部ブロック据付			
イ) 防波堤			
ロ) 岸 壁			
ハ) 栈橋上部コンクリート			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ + 2 cm, - 1 cm 長さ + 2 cm, - 1 cm 壁厚 ± 1 cm	
1 cm	管理表を作成し提出		
			14-1上部コンクリート工 イ)防波堤を適用する。
			14-1上部コンクリート工 ロ)岸壁を適用する。
			14-1上部コンクリート工 ハ)栈橋を適用する。

## 15. 付属工

### 15-1 係船柱工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 係船柱	天端高	レベルにより測定	据付完了時、中心部、全数
	岸壁前面に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	据付完了時、全数
	中心間隔	スチールテープ等により測定	据付完了時、各スパン毎中心部、各基
	直柱基礎コンクリート（幅）	スチールテープ等により測定	完了時、全数、天端両端
	（長さ）	スチールテープ等により測定	完了時、全数、前後面
	（高さ）	レベルにより測定	完了時、全数、中心点

### 15-2 防舷材工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 防舷材	取付高さ	レベル又はスチールテープ等により測定	取付完了時、中心部、全数
	中心間隔	スチールテープ等により測定	取付完了時、中心部、全数

### 15-3 車止・縁金物工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
車止・縁金物工	天端高	レベルにより測定	取付完了時、中心部、全数
	岸壁前面に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	取付完了後中心部を1点
	取付間隔	スチールテープ等により測定	上部工1スパンに2箇所
	塗 装	目視による観察	
	警戒色（シマ模様）	スチールテープ等により測定	完了時適宜

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	曲柱± 2 cm 直柱± 2 cm	様式・出来形15-1-1参照
1 cm	管理表を作成し提出		
1 cm	管理表を作成し提出		
1 cm	管理表を作成し提出		
1 cm	管理表を作成し提出		
1 cm	管理表を作成し提出		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出		様式・出来形15-2-1参照
1 cm	管理表を作成し提出		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出		様式・出来形15-3-1参照
1 cm	管理表を作成し提出	± 3 cm	
1 cm	管理表を作成し提出		
	観察結果を報告		
	確認結果を報告		



#### 15-4 防食工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
防食工			

#### 15-5 付属設備工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
係船環	取付位置	スチールテープ等により測定	取付完了時、中心部、全数

### 16. 消波工

#### 16-1 洗掘防止工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
洗掘防止工			

#### 16-2 消波ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 消波ブロック製作	型枠形状寸法（異形ブロック）	観 察	型枠搬入後適宜
	ブロック外観（異形ブロック）	観 察	10個に1個以上測定
2. 消波ブロック据付	延 長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上（最上段のみ）

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-12防食工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-4洗掘防止工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	観察結果を報告		
	観察結果を報告		
1 cm	管理表を作成し提出		

## 17. 裏込・裏埋工

### 17-1 裏込工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 裏込材 (均しを行わない面)	天端高	レベル、レッドにより測定	測線及び測点間隔は10m以下
	法 面	レベル、レッドにより測定	測点は3点以上
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	天端中心上又は監督職員の指示による。
2. 裏込均し	天端面	レベル、レッドにより測定	測線及び測点間隔は10m以下
	法 面	レベル、レッドにより測定	測点は3点以上
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	天端中心上又は監督職員の指示による。
3. 吸出し防止材	敷設位置	スチールテープ、間縄等により測定	始、終端及び変化する箇所毎並びに20mに1箇所以上
	重ね幅	スチールテープ等により測定	1枚に2点
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	マットの中心を区間毎及び全長

### 17-2 裏埋工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
裏埋材	地盤高 (陸上部)	レベル等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下
	(水中部)	レベル、レッド及び音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下

### 17-3 裏埋土工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 土砂掘削 2. 土砂盛土	地盤高	レベル等により測定	法肩、法尻及び中心を延長20mに1箇所以上
	幅	スチールテープ等により測定	延長20mに1箇所以上
	法長	スチールテープ等により測定	延長20mに1箇所以上
	延長	スチールテープ等により測定	両端及び中心

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
陸上 1 cm 水中 10cm	出来形図を作成し提出	特による。	
10cm	出来形図を作成し提出	特による。	
10cm	出来形図を作成し提出	特による。	
10cm	出来形図を作成し提出	特による。	
陸上 1 cm 水中 10cm	出来形図を作成し提出	±20cm	
10cm	出来形図を作成し提出	±20cm (法面に直角)	マット等を使用する場合を含む。
10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -10cm	
10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -10cm	
10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	特による。	様式・出来形1-4-1参照 アスファルトマット、繊維系マット、合成樹脂系マット
1 cm	測定表及び敷設図を作成し提出	50cm以上(アスファルトマット・繊維系マット) 30cm以上(合成樹脂系マット)	
10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	+規定しない -10cm	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	平面図に実測値を記入し提出	特による。	変化点は測定する。
10cm	平面図に実測値を記入し提出	特による。	変化点は測定する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提出	特による。	様式・出来形17-3-1参照
10cm	測定表を作成し提出	特による。	
10cm	測定表を作成し提出	特による。	
10cm	測定表を作成し提出	特による。	

## 18. 陸上地盤改良工

### 18-1 圧密・排水工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
圧密・排水工			

### 18-2 締固工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
締固工			

### 18-3 固化工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
固化工			

## 19. 土 工

### 19-1 掘削工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 土砂掘削			

### 19-2 盛土工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 土砂盛土			

### 19-3 路床盛土工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 路床盛土	高 さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所、道路舗装は中心及び両端部の3点を延長40mに1箇所
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所
	延 長	スチールテープ等により測定	両端2箇所

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-1圧密・排水工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-2締固工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-3固化工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			17-3-1土砂掘削を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			17-3-2土砂盛土を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提出	± 5 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない -10cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 0	

#### 19-4 法面工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 法 面			

#### 20. 舗装工

##### 20-1 コンクリート舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
コンクリート舗装工			

##### 20-2 アスファルト舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
アスファルト舗装工			

#### 21. 維持補修工

##### 21-1 維持塗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 係船柱塗装	塗装箇所	目視（承諾された図面より確認）	塗装完了後、全数
2. 車止塗装			
イ) 鋼 製	塗装箇所	目視（承諾された図面より確認）	塗装完了後、全数
ロ) その他	塗装箇所	目視（承諾された図面より確認）	塗装完了後、全数
3. 縁金物塗装			

##### 21-2 防食工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
防食工			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			17-3-1土砂掘削、17-3-2土砂盛土及び1-15植生工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-13コンクリート舗装工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-14アスファルト舗装工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	確認結果を提出	特による。	
	確認結果を提出	特による。	
	確認結果を提出	特による。	
			21-1-2車止塗装を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-12防食工を適用する。



## 2.2. 船揚場工

### 2.2-1 床堀工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. ポンプ床掘 2. グラブ床掘 3. 硬土盤床掘 4. 砕岩床掘 5. バックハウ床掘	水 深 (底面)		
	(法面)		

### 2.2-2 床堀土工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 土砂掘削			
2. 土砂盛土			

### 2.2-3 基礎捨石工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 基礎捨石 (均しを行わない面)			
2. 捨石本均し			
3. 捨石荒均し			

### 2.2-4 裏込工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 裏込均し	天端面	レベル、レッドにより測定	測線及び測点間隔は10m以下
	法 面	レベル、レッドにより測定	測点は3点以上
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	天端中心上

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			港湾工事出来形管理基準
			港湾工事出来形管理基準 3-1床掘工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			港湾工事出来形管理基準
			港湾工事出来形管理基準

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			港湾工事出来形管理基準 4-3基礎捨石工を適用す
			港湾工事出来形管理基準 4-3基礎捨石工を適用す
			港湾工事出来形管理基準 4-3基礎捨石工を適用す

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	出来形図を作成し提出	(I) ±5cm (II) ±20cm	均し区分は〈特〉による。
10cm	出来形図を作成し提出	±20cm (法面に直角)	マット等を使用する場合を含む。
10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -10cm	
10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -0	

#### 2 2-4 裏込工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
2. 吸出し防止材	敷設位置	スチールテープ、間縄等により測定	始、終端及び変化する箇所毎並びに20mに1箇所以上
	重ね幅	スチールテープ等により測定	1枚に2点
	延長	スチールテープ、間縄等により測定	マットの中心を区間毎及び全長

#### 2 2-5 被覆石工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 被覆石 (均しを行わない面)			
2. 被覆石均し			

#### 2 2-6 裏埋工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
裏埋工			

#### 2 2-7 裏埋土工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 土砂掘削			
2. 土砂盛土			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	〈特〉による。	港湾工事出来形管理基準様式・出来形1-5-1参照
1 cm	測定表及び敷設図を作成し提出	50cm以上(アスファルトマット・繊維系マット) 30cm以上(合成樹脂系マット)	アスファルトマット、繊維系マット、合成樹脂系マット
10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	+規定しない - 0	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			港湾工事出来形管理基準 13-1被覆石工を適用す
			港湾工事出来形管理基準 13-1被覆石工を適用す

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			港湾工事出来形管理基準

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			港湾工事出来形管理基準 19-1 1. 土砂掘削を適用
			港湾工事出来形管理基準 19-2 1. 土砂盛土を適用

### 22-8 基礎栗石工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 基礎栗石均し	天端高	レベル又は〈特〉により測定	測線及び測点間隔は10m以下
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	法線上

### 22-9 先端止壁ブロック、張りブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. ブロック製作	幅、高さ、長さ	スチールテープ等により測定	型枠取外し後10個に1個以上測定
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数10個に1個以上測定
2. ブロック据付	法線に対する出入（先端止壁の隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき1箇所
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所
	延 長	スチールテープ等により測定	両端2箇所（上段、下段）
	天端高	レベル等により測定	据付後測線につき3箇所（下段、中断、上段）

### 22-10 中間止壁工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 止壁コンクリート	天端高又は厚さ	レベル、スチールテープ等により測定	測点毎に1箇所 測点間隔は10m以下
	天端幅	スチールテープ等により測定	測点毎に1箇所 測点間隔は10m以下
	延 長	スチールテープ等により測定	法線上

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	均し出来形図を作成し提出	± 5 cm	
10cm	均し出来形図を作成し提出	+規定しない - 10cm	
10cm	均し出来形図を作成し提出	+規定しない - 0	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ + 2 cm, - 1 cm 長さ + 2 cm, - 1 cm	港湾工事出来形管理基準 様式・出来形13-3参照
1 cm	管理表を作成し提出		
1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
1 cm	管理表を作成し提出	3 cm以下	
1 cm	管理表を作成し提出	+規定しない - 0	先端止壁は1箇所
1 cm	管理表を作成し提出	〈特〉による	先端止壁は測線につき 1箇所

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	天端高又は厚さの管理項目の選定は〈特〉による。
1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 0	

## 2 2-11 コンクリート舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 路盤工	高 さ	レベル等により測定	中心及び両端部の3点を延長20m又は測点毎に1箇所
	厚 さ	レベル等により測定	延長20m又は測点毎に1箇所
	幅	スチールテープ等により測定	延長20m又は測点毎に1箇所
	延 長	スチールテープ等により測定	両端2箇所
2. コンクリート舗装工	厚 さ	レベル等により測定	中心及び両端部の3点を延長20m又は測点毎に1箇所
	幅	スチールテープ等により測定	延長20m又は測点毎に1箇所
	延 長	スチールテープ等により測定	両端2箇所

## 2 2-12 滑り材取付工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 滑り材	取付間隔	スチールテープ等により測定	取付完了時、適宜

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提出	± 4 cm	港湾工事出来形管理基準 様式・出来形1-14参照
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない -4.5cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 5 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 0	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 1 cm	コンクリート版の厚さ、その他を確認するため、監督職員が必要と認めたときは、コアを採取する。
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない -2.5cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 0	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	(特) による	



## 23. 魚 礁 工

### 23-1 単体魚礁製作工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 単体魚礁製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後10基に1基以上測定
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後10基に1基以上測定
	型枠形状寸法	観 察	型枠搬入後適宜
	ブロック外観	観 察	全 数

### 23-2 組立魚礁組立工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. コンクリート部材 組立	幅、高さ、長さ	スチールテープ等により測定	10基に1基以上測定
	ボルトの取付け	観 察	全箇所
2. 鋼製部材組立	幅、高さ、長さ	スチールテープ等により測定	10基に1基以上測定
	のど厚、脚長、溶接長	スチールテープ、ノギス、溶接ゲージ等により測定	〈特〉による。
	有害な欠陥の有無	観 察	全 数
	溶接部非破壊試験	JIS Z 3104放射線透過試験の他、〈特〉にカラーチェック	〈特〉による。 〈特〉による。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ + 2 cm, - 1 cm 長さ + 2 cm, - 1 cm 壁厚 ± 1 cm	様式・出来形23-1参照
1 cm	管理表を作成し提出		
	観察結果を報告		
	観察結果を報告		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 mm	管理表を作成し提出	幅、高さ、長さ + 1 0 mm × 部材連 数	様式・出来形23-2参照
	観察結果を報告		
1 mm	管理表を作成し提出	幅 + 30mm, - 10mm 高さ + 30mm, - 10mm 長さ + 30mm, - 10mm	
1 mm	測定表を作成し提出	〈特〉による。	
	観察結果を報告		
	写真又はフィルム を提出	〈特〉による。	
	写真を提出	〈特〉による。	

### 23-2 組立魚礁組立工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
3. 化学系 (FRP) 部材組立	幅、高さ、長さ	スチールテープ等により測定	10基に1基以上測定
	接続帯の取付け	観 察	接続終了後、全箇所
4. 重錘コンクリート 製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	10基に1基以上測定

### 23-3 魚礁沈設工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 魚礁沈設	位置 集中配置 (乱積配置)	GPS及びD-GPS等により測定	魚礁沈設時に10基に1基以上測定
	位置 ゾーン配置	GPS及びD-GPS等により測定	魚礁沈設時に10基に1基以上測定
	位置 計画配置 (相対配置)	GPS及びD-GPS等により測定	魚礁沈設時に全基測定
	高さ	音響測深器等により測定	集中配置、ゾーン配置は中心点から8方位を測定 計画配置は〈特〉による。
	長さ、幅	音響測深器等により測定	集中配置、ゾーン配置は中心点から8方位を測定 計画配置は〈特〉による。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 mm	管理表を作成し提出	〈特〉による。	様式・出来形23-2参照
	観察結果を報告	〈特〉による。	
1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 3 cm, - 1 cm 高さ + 3 cm, - 1 cm 長さ + 3 cm, - 1 cm	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
緯度経度 公共座標	管理表を作成し提出	配置中心点: ±30m その他は 〈特〉による。	様式・出来形23-3参照
緯度経度 公共座標	管理表を作成し提出	ゾーン内	
緯度経度 公共座標	管理表を作成し提出	±30m	
10 cm	出来形図を作成し、記録紙にも寸法を表示し提出	集中配置： + 規定しない - 0 (Hは魚礁1基の高さ) ゾーン配置、計画配置：重ならないこと、その他は〈特〉による。	集中配置：最高部の許容範囲
10 cm	出来形図を作成し、記録紙にも寸法を表示し提出	〈特〉による。	

## 24. 着底基質工

### 24-1 着底基質製作工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 着底基質製作	型枠形状寸法 (異形ブ)	観 察	型枠搬入後適宜
	ブロック外観 (異形ブ)	観 察	全 数

### 24-2 着底基質組立工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 着底基質組立			

### 24-3 着底基質設置工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 着底基質設置	位置 計画配置 (相対配置)	GPS及びD-GPS 等により測定	着底基質設置時に全基 測定
	長さ、幅	音響測深器等により測定	〈特〉による。

### 24-4 石材投入工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 石材投入	投入位置	GPS及びD-GPS 等により測定	〈特〉による。
	長さ、幅	音響測深器等により測定	各3測線以上

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	観察結果を報告		魚礁タイプは、2. 魚礁工を適用する。
	観察結果を報告		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			2-2 組立魚礁組立工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
緯度経度 公共座標	管理表を作成し提出	±30m	様式・出来形23-3（計画配置）参照
10cm	出来形図を作成し、記録紙にも寸法を表示し提出	〈特〉による。	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
緯度経度 公共座標	管理表を作成し提出	±30m	捨石マウンドタイプは、港湾工事出来形管理基準4-3 基礎捨石工を適用する。 様式・出来形24-4参照 様式・出来形24-4参照
10cm	出来形図を作成し、記録紙にも寸法を表示し提出	〈特〉による。	

## 25. 構造物撤去工

### 25-1 取壊し工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. コンクリート取壊し	外 観	目視による観察	全 数

### 25-2 撤去工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 水中コンクリート撤去	幅、高さ、延長	トランシット、スチールテープ等により測定	④による。
	外 観	潜水士による観察	全 数
2. 鋼矢板等切断撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	全 数
	外 観	目視又は潜水士による観察	全 数
3. 腹起・タイ材撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	全 数
	外 観	目視又は潜水士による観察	全 数
4. 舗装版撤去	幅、高さ、延長	トランシット、スチールテープ等により測定	④による。
	外 観	目視による観察	全 数
5. 石材撤去	幅、高さ、延長	トランシット、スチールテープ等により測定	④による。
	外 観	目視又は潜水士による観察	全 数
6. ケーソン撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	全 数
	外 観	目視又は潜水士による観察	全 数
7. ブロック撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	全 数
	外 観	目視又は潜水士による観察	全 数
8. 鋼矢板・H形鋼杭引抜き撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	全 数
	外 観	目視又は潜水士による観察	全 数

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	観察結果を報告		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
㊟による。	管理表を作成し提出 観察結果を報告	㊟による。	
1 mm	測定表を作成し提出 観察結果を報告	㊟による。	
㊟による。	測定表を作成し提出 観察結果を報告	㊟による。	
㊟による。	管理表を作成し提出 観察結果を報告	㊟による。	
㊟による。	管理表を作成し提出 観察結果を報告	㊟による。	
㊟による。	測定表を作成し提出 観察結果を報告	㊟による。	
㊟による。	測定表を作成し提出 観察結果を報告	㊟による。	
1 mm	測定表を作成し提出 観察結果を報告	㊟による。	



## 26. 仮設工

### 26 - 1 仮設鋼矢板工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 仮設鋼矢板・H形鋼杭			

### 26 - 2 仮設鋼管杭・鋼管矢板工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 先行掘削			
2. 仮設鋼管杭・鋼管矢板工			

### 26 - 3 仮設道路工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 仮設道路工			

## 27. 雑 工

### 27 - 1 現場鋼材溶接工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 現場鋼材溶接	形状寸法 (のど厚、 脚長、溶接 長等)	スチールテープ、ノギ ス、溶接ゲージ等によ り測定	適 宜
	ひずみ	目視による観察	全 数
	有害な欠陥 の有 無	目視による観察	適 宜
2. 被覆溶接(水中)	形状寸法 (のど厚、 脚長、溶接 長等)	スチールテープ、ノギ ス、溶接ゲージ等によ り測定	適 宜
	外 観	潜水士による観察	全 数
3. スタッド溶接 (水中)			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-8-2鋼矢板 ｲ) 鋼矢板を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-8-1先行掘削を適用する。
			1-8-2鋼矢板式 ｻ) 鋼管矢板及び1-10-2鋼杭を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-13コンクリート舗装工及び1-14アスファルト舗装工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 mm	測定表を作成し提出	㊦による。	様式・出来形24-1-1参照
	観察結果を報告		
	観察結果を報告		
1 mm 溶接長は1 cm	測定表を作成し提出	㊦による。	
	観察結果を報告		
			24-1-2被覆溶接（水中）を適用する。

## 27 - 2 現場鋼材切断工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 現場鋼材切断 イ) 陸上現場切断	形状寸法	スチールテープ等により測定	全 数
	外 観	目視による観察	全 数
ロ) 水中切断	形状寸法	スチールテープ等により測定	全 数
	外 観	目視又は潜水土による観察	全 数

## 27 - 3 その他雑工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 清 掃	幅、長さ、延長	スチールテープ等により測定	全 数
	外 観	目視又は潜水土による観察	全 数
2. 削 孔	形状寸法	スチールテープ等により測定	全 数
	外 観	目視又は潜水土による観察	全 数

## 28. 浚渫工

### 28 - 1 ポンプ浚渫工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. ポンプ浚渫	水 深 (底面)	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	特による。
	(法面)	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	特による。

### 28 - 2 グラブ浚渫工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. グラブ浚渫			

### 28 - 3 硬土盤浚渫工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 硬土盤浚渫			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 mm	測定表を作成し提出 観察結果を報告	㊟による。	
1 mm	測定表を作成し提出 観察結果を報告	㊟による。	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 mm	測定表を作成し提出 観察結果を報告	㊟による。	
1 mm	測定表を作成し提出 観察結果を報告	㊟による。	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
10cm	業務共通仕様書第2編1-2-5の6 平面図に実測値を記入し提出	+0 -規定しない又は㊟による。	様式・出来形25-1参照 +；設計値より浅いことをいう。 -；設計値より深いことをいう。
10cm	業務共通仕様書第2編1-2-5の6 平面図に実測値を記入し提出	+0 -規定しない又は㊟による。	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			25-1-1ポンプ浚渫を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			25-1-1ポンプ浚渫を適用する。

28 - 4 岩盤浚渫工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 砕岩浚渫			

28 - 5 バックホウ浚渫工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. バックホウ浚渫			

29. 埋立工

29 - 1 固化工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
固化工			

29 - 2 埋立土工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 土砂掘削			
2. 土砂盛土			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			25-1-1ポンプ浚渫を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			25-1-1ポンプ浚渫を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-3固化工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			17-3-1土砂掘削を適用する。
			17-3-2土砂盛土を適用する。

### 30. 道路舗装工

#### 30-1 コンクリート舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
コンクリート舗装工			

#### 30-2 アスファルト舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
アスファルト舗装工			

#### 30-3 道路付属工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 縁 石	高 さ	レベルにより測定	監督職員の指示による。
	総延長	スチールテープ等により測定	図面に記載する箇所
2. 区画線及び道路標示	幅	スチールテープ等により測定	監督職員の指示による。
	長 さ	スチールテープ等により測定	監督職員の指示による。
3. 道路標識	高 さ	スチールテープ等により測定	1箇所につき1回
4. 防護柵	高 さ	スチールテープ等により測定	監督職員の指示による。
	総延長	スチールテープ等により測定	図面に記載する箇所

### 31. 緑地工

#### 31-1 植生工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
植生工			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-13コンクリート舗装工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-14アスファルト舗装工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提出	± 3 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 5 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	± 1 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	± 10cm	
1 cm	測定表を作成し提出	± 5 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+ 3 cm - 2 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 10cm	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-15植生工を適用する。